



橋本健一郎氏

海外銅、 為替とも 中国や米国の動向が相場を左右へ

銅スクランブル需給
発生薄だがバランスか

橋本健一郎氏リポート①

八月前半は七月のインド業PMI改定値は四七・八に下方修正。四七・八は二年ぶりの低水準だったこと。中国人民銀行調査統計局長、中国経済への下方圧力は年後半も続くと認識示したことからLME銅相場はDOWN、八月十五日時点で五、一五六ドルセツルと月初価格より六四ドルDOWNの前半締めとなつた。

後半は、国家隊(政府資金)が二兆三、〇〇〇億円の資金投入をしたとの観測を受けて反発したこと、人民銀は二十六日に短期流動性オペ(SLO)を通じて一、四〇〇億元(約二兆六、〇〇〇億円)を市場に供給したと発表。前日の政策金利や預金準備率の引き下げに続いて施策を打ち出したことが金融市場の安定を促すなどのプラス材料もあつたが、中国の三連続利下げからの景気後退懸念やWTI原油が一時四〇ドル割れを興したことからDOWN、九月二日現在、後半スタート価格から六ドルDOWNの五、〇九五ドル。銅建値六七万円のスタートとなつた。

◆月間のドル/円レート (TTT)

一二四・八四→一二二・六五(円)

◆自動車生産台数

日本自動車工業会によると、自動車生産台数は

前年比五・九%減の八九万四、八四六台であった。

◆新設住宅着工戸数

国土交通省統計によると、新設住宅着工戸数は

前年比七・四%増の七万八、二六三戸であつた。

◆貿易関連指標

輸出 財務省貿易統計によると、輸出は前年比で電気銅が二三・六%増の四万七、三一三t、スクランブルが三一・九%減の一萬九、九一四t。

輸入

輸入は電気銅が前年比七八・九%減の一、一〇六t、スクランブル二・九%減の七、五五八t。

■前月の国内指標

日本伸銅協会発表の伸銅品生産推移(速報)によれば、前年比七・三%減の六万五、三五〇t。日本電線工業会発表の出荷速報(推定)銅電線出荷量は、前年比一・八%減の六万一、五〇〇tであった。

概況

【自動車生産】

七月の四輪車生産台数は八四万一、八一二万台で、前年同月の八九万四、八四六台に比べて五万三、〇三四台(五・九%)の減少となり、一三カ月連続で前年同月を下回つた。

七月の車種別生産台数と前年同月比は次のとおり。
乗用車七〇万七、九一一台で四万九、六一二台(六・五%)の減少となり、一三カ月連続のマイナス。このうち普通車は四四万五、四四四台で九、〇八六台(一・一%)の増加、小型四輪車は一四五万二、八九六台で一万七、八五五台(一・一・一%)の減少、軽四輪車は一万九、五七一台で四五万〇、八四三台(一・五・五%)の減少。

七月の国内需要は四二万五、〇九三台で、前年同月比七・六%の減少であった。うち乗用車三五万五、八九二台で前年同月比九・一%の減少、トラック六万八、一四一台で同〇・四%の増加、バス一、〇六〇台で同二・三%の増加。

輸出は前年同月比〇・四%の増加(実績)。

【自動車販売】

七月の国内自動車販売台数(軽は除く)は二二万一、三〇三台で前年比二・三%増と、一カ月ぶり再びプラス。うち、乗用車一・七%増、貨物五・五%増、バス六・一%増。

【住宅着工数】

平成二十七年七月の住宅着工戸数は七万八、二六三戸で、前年同月比で七・四%増となつた。また、季節調整済年率換算値では九一・四万戸(前月比一・五%減)となつた。

(持家)

前年同月比では三カ月連続の増加(前年同月比八・〇%増、季節調整値の前月比では六・〇%減)。

(貸家)

前年同月比では四カ月ぶりの減少(前年同月比九・〇%減、季節調整値の前月比では二・七%減)。

(四面より続く)
(分譲マンション)

前年同月比では四力月ぶりの減少(前年同月比一七・六%減)。

(分譲一戸建住宅)

前年同月比では五力月連続の減少(前年同月比二・七%減)。

(伸銅品生産)

伸銅品生産は前年比七・三%減の六万五、三五〇tで五力月連続マイナス。このうち、内需五万五、〇二八tで五・五%減と九力月連続マイナス。輸出一万〇、二二三tで一五・六%減と四力月連続マイナス。品種別では、銅条は一万九、四二〇tで九・六%減と三力月連続マイナス。黄銅棒一万四、八〇二tで七・九%減と二力月連続マイナス。内需輸出ともマイナスで、銅管、黄銅棒などは一桁マイナスに留まった。

(銅電線出荷量)

前年比二・八%減の六万一、五〇〇t。うち、国内一・六%減、輸出が三二・四%減。出荷部門別では、通信二五・一%減、電力二三%増、電気機械五・五%減、自動車二・二%減、建設電販〇・二%減、その他内需六・四%減。

(輸出)

電電気銅輸出が前年比二三・六%増の四万七、三二三t。銅スクラップは三一・九%減の一万九、九一四t。

(輸入)

電気銅が七八・九%減の二、一〇六t。スクラップは二一・九%減の七、五五八t。

(見通し)

・自動車は生産が前月に続き大減少の五・九%減。八月の国内販売台数が前年比二・三%増、生産が一三力月連続マイナスではあるが販売が一カ月ぶりプラス。

生産がついに一年間以上前年割れとなつたが販売の方が一カ月ぶりにプラス。生産増に繋がるか今後の動向に期待。

・新設住宅着工数は、八万八、一一八戸で、前年同月比で一六・二%増となつた。

また、季節調整済年率換算値では一〇三・三万戸(前月比二三・四%増)となつた。利用関係別にみると、実数値では、前年同月比で持家、貸家で増、分譲住宅で減となつた。季節調整値についてには、前月比で持家、貸家、分譲住宅とともに減となつた。住宅着工の動向については、このところ前年同月比で五力月連続の増加となつておらず、昨年四月連続の増加となつた。今般の経済対策等の効果が住宅着工に表れていると思われる。引き続き、今後の動向をしっかりと注視していく必要がある。今後の動向に注目。

・伸銅品生産は五力月連続マイナスの前年比七・三%減。

力月連続マイナス。黄銅棒が再び一万五千t台割れ、輸出も前月に続々減少が続き四力月連続マイナス。

内需が急回復するとは考えにくいが住宅着工が五力月連続にプラスだった事から今後の動向に期待したい。

・電線は輸出が二カ月連続二桁減少し、期待の大幅な円安トレンドから地金は増加。スクラップは内需の発生難を受けて減少した。

・輸入は内需の不透明感や大幅な円安に伴う割高感から大幅減少。スクラップ同様に大幅減少した。

(スクラップ需給予想)

流通在庫は、電気銅建値が七一〇円から六四〇円まで乱高下した過程で塩漬け玉が発生した。伸銅品生産の低調に伴い発生薄のトレンドは変わらないが、メーカーもさすがに原料不足から買い止めはしておらず、需給はバランスしているのではないか。

(価格為替予想)

今月は、中国の株価対策及び景気対策、そして米国の利上げ問題に左右される。

中国の株価および景気対策に関しては、当局は先月に続きもはや自由経済とは思えないほどの株価策をなりふり構わず行い、一次的に反発はしたもの、やはり有効な策とは言えず、また実需を生み出す景気対策も行っていないことから更なる下落をするのではないか?

米利上げ時期に関しては当初予定の九月説は、米経済指標は堅調ではあるが、中国バブル崩壊の機運が高まる中、今行う可能性は低いのではないか

それらを踏まえた七月の銅価格は、中国当局が株価及び景気対策に関しての何かしらの表明、上海金の下落を落ち着かせ、米国が今月の利上げを行わなかつた場合、八月高値一段高の五、四〇〇ドルを予測。いずれかの場合は五、二〇〇ドル。下値はいずれの条件も達成できなかつた場合、もう一段安値の四、九〇〇ドル。

為替は、米FRBの利上げについて九月説が台頭していたが、中国バブル崩壊の機運が高まる中今月行われる可能性は低いのではないか。それらを踏まえ予測は、上値はアメリカが九月の利上げを行つた場合、中国バブル崩壊が早まる事や新興国からの資金吸い上げ、それに伴うドル高の加速判断から大幅円高の一九円台を予測。下値は利上げを行わなかつた場合ほぼ現状と変化なしとの判断から一二三円台。

銅建値に關しては六六〇~七六〇円程度と予測している。